

防虫科学

季刊

第 36 卷—I

原 著

1. チーズ成分の相乗作用によるケナガコナダニ誘引性
芳沢 宅実・山本 出・山本 亮…… 1
2. 有機燐殺虫剤の土壌施用に関する研究 第1報
³²P 標識 Disulfoton 及び Dimethoate の土壌における保持
川森 郁郎・斎藤 哲夫・弥富 喜三…… 7
3. 有機燐殺虫剤の土壌施用に関する研究 第2報
³²P 標識 Disulfoton 及び Dimethoate の
土壌における保持及び代謝の経時的変動
川森 郁郎・斎藤 哲夫・弥富 喜三……12
4. 浸透殺虫剤の施用法に関する基礎的研究 (II)
土壌処理による各種浸透殺虫剤の水稻における浸透および移行について
石黒 丈雄・斎藤 哲夫……17
5. スジマダラメイガに対する性フェロモン類縁化合物の活性について
高橋 正三・北村 実彬・桑原 保正……20
6. オウシマダニとフタトゲチマダニに対する駆除剤の効力検定
北村 茂男・藤崎 幸藏……27

抄 録

……35, 36

財団法人防虫科学研究所

京 都 大 学 内

昭和46年2月

防 虫 科 学

編 集 委 員

主 幹 武 居 三 吉

内 田 俊 郎 大 野 稔 中 島 稔

石 井 象 二 郎 井 上 雄 三 深 海 浩

投 稿 規 定

1. 防虫科学に関する研究論文、綜説ならば誰でも投稿できる。ただし原稿の取捨は編集委員会できめる。また原稿の字句については加除修正を行なうことがある。
2. 報文は邦文または欧文とし、邦文には欧文の、欧文には邦文の要約を添える。表題、著者名および所属機関名などは邦文・欧文両者を併記する。
3. 邦文原稿は原則として本誌規定の原稿用紙(400字詰50枚100円)を用いる。欧文はタイプライター用紙にタイプライターでダブルスペースに打つ。邦文原稿の写真、表および図の説明は欧文とする。
4. 邦文は平かな、新かな使いとし、欧語音読には片かなを用いる。ただし物質名、人名などは欧文のままとする。図は白紙または背線方眼紙にていねいに墨書し、原稿とは別紙とする。不完全な図はトレーシング費用を負担してもらうことがある。
5. 動植物の学名の下には_____を付ける(例: *Chilo suppressalis* イタリックとなる)。和名は片かなを用いる。数字はすべてアラビア数字を用い、数量の単位はメートル法による。単位および術語の略字は本既刊誌を参照されたい。
6. 句読点、カッコは1画を与える。ハイフンは区画の罫線の上に明瞭に書く。本文中の引用文献番号はカッコを付けて肩に小さく書く。文献は報文の最後に通し番号の順に列記し、著者名、雑誌名(書名)、巻、頁、年号の順に記し、巻数には~~~~~を付ける(例: (1) Stevenson E. and Wyatt G.R.: Archs. Biochem. Biophys. 99, 65, 1966)。邦文雑誌名は日本化学総覧、欧文雑誌名は Chemical Abstracts, Biological Abstracts の規定の略名に従う。
7. 校正は原則として初校に限り著者が行なう。
8. 別刷は50部贈呈する。それ以上の希望数に対しては50部を単位とし、実質を申受ける(当分刷上がり1頁6円の計算による)。
9. 原稿の送付には送状を付し、発送年月日、連絡先、原稿枚数、写真および図・表数、別刷希望数などを記入する。原稿の郵送は書留とし、校正は速達とする。
投稿その他の編集に関する連絡は下記にされたい。

京都市左京区北白川 京都大学農学部
農薬研究施設 石井象二郎 (771) 8111 内 4669

“SCIENTIFIC PEST CONTROL”
BOTYU-KAGAKU

Bulletin of the Institute of Insect Control

Editor Sankichi TAKEI

Editorial Board

Syunro UTIDA, Minoru OHNO, Minoru NAKAJIMA,
Shoziro ISHII, Yuzo INOUE, Hiroshi FUKAMI

CONTENTS

Originals

1. Synergistic Attractancy of Cheese Components for Cheese Mites,
Tyrophagus putrescentiae.
Takumi YOSHIZAWA, Izuru YAMAMOTO and Ryo YAMAMOTO..... 1
2. Fate of Organophosphorus Insecticides in Soils. Part I.
The Retention of ³²P-Labeled Disulfoton and Dimethoate in the three Soils.
Ikuro KAWAMORI, Tetsuo SAITO and Kisabu IYATOMI..... 7
3. Fate of Organophosphorus Insecticides in Soils. Part II.
The Changes of the Retention and the Metabolism of ³²P-Labeled
Disulfoton and Dimethoate in the Soils.
Ikuro KAWAMORI, Tetsuo SAITO and Kisabu IYATOMI.....12
4. The Fundamental Research to the Application of Systemic Insecticides (II).
The Absorption and Translocation of Several Insecticides in
Rice Plant by Soil Application.
Takeo ISHIGURO and Tetsuo SAITO.....17
5. The Comparative Pheromone Activity of Acetates of Unsaturated
Alcohol to Males of the Almond Moth.
Shozo TAKAHASHI, Chikayoshi KITAMURA and Yasumasa KUWAHARA.....20
6. Laboratory Assessment of Tick-Controlling Chemicals Against *Boophilus*
microplus and *Haemaphysalis longicornis*.
Shigeo KITAOKA and Kozo FUJISAKI.....27

Abstracts

.....35, 36

Published by
THE INSTITUTE OF INSECT CONTROL
Kyoto University
Kyoto, Japan